



—第9号—

地域・だいがく連携通信

—神戸大学地域連携ニュース—

神戸大学地域連携推進室
〒657-8501
神戸市灘区六甲台町1-1
TEL : 078-803-5427
FAX : 078-803-5389
E-mail : ksui-chiiki@office.kobe-u.ac.jp

篠山市・神戸大学 大学協定締結記念シンポジウムを開催



2011年7月3日、篠山市・神戸大学 大学協定記念シンポジウムが、篠山市丹南健康福祉センターで開催されました。昨年8月30日に締結された「連携協力に関する協定」を記念するものです。篠山市、神戸大学関係者だけでなく、一般市民も参加し、合わせて86名の参加者がありました。

篠山市とは、農学研究科の前身である兵庫県立農科大学が、1949年から1967年まで所在した縁の深い地域です。2007年4月には、農学研究科との間で地域連携協定を締結し、篠山フィールドステーションを拠点に、連携研究、現地実習、公開講座、フォーラムなどを開いてきました。

シンポジウムのテーマは、「篠山の「知」の創造をめざして」。連携協定を機に、神戸大学と一緒に、酒井隆明市長の提唱する「篠山の時代」を支える「知」を模索していこうと開かれました。

シンポジウムでは、農学研究科の取り組みに加え、昨年からはまった高田哲保健学研究科地域連携センター長から、「篠山市・神戸大学が連携して行う発達障害相談事業」についての報告がありました。篠山市のような規模の市では、大都市と異なり、全数調査が可能であり、就学後も支援が可能という利点があります。この事業は、今年度から兵庫県の5歳児発達相談モデル事業に選定されています。



第2部の意見交換会では、地元みたちの里まちづくり協議会や県立篠山東雲高等学校から、また神戸大学農学部生や保健学研究科院生から、それぞれの立場で、篠山と一緒に活動した体験や、さらにこれから期待することが語られました。フロアからは、特に保健学研究科の調査をめぐる質問があり、活発な意見交換がおこなわれました。

シンポジウム「大学生が地域とともにできること」

学生ボランティア支援室

神戸大学瀧川記念学術交流会館で7月31日、第2回「大学生が地域とともにできること」学生支援GP終了後を考える連続シンポジウムが開かれました。第1部では、1階ホールで神戸大学と関係の深い地域との連携を進めている13団体のブース展示がおこなわれました。

第2部では、岩崎信彦名誉教授の講演とともに、神戸大学と学生の取組紹介として、「灘チャレンジ実行委員会」「中越・KOBE足湯隊」「学生流むらづくりプロジェクト 木の家」「まちプロジェクト実行委員会」から活動について報告がありました。続いて、藤室玲治・学生ボランティア支援室研究委員をコーディネートにより、地域や行政、大学の立場から「地域が期待する、大学と大学生の役割」をテーマにパネルディスカッションがおこなわれました。

地域活動に参加する学生は、実際に活動してみて、地域と学生といった二分法で考えるのではなく、地域の人たちは「一緒に」活動する仲間であるに関わり方に変化していった体験や、大学側に「地域と一緒に中・長期的に入っていける大人の存在」を望む、あるいは「そういう人を紹介してほしい」との意見が出されました。



【参加団体】

中越・KOBE足湯隊
 灘百選の会
 灘チャレンジ実行委員会
 神戸大学総合ボランティアセンター障害者セクション
 神戸大学学生震災救援隊
 まちプロジェクト実行委員会
 アメリカンフットボール部 RAVENS
 PEPUP ～平和と自立のためのパートナーシップ～
 学生流むらづくりプロジェクト「木の家」
 都市×農村交流サークル「ささやまファン倶楽部」
 神戸大学大学院農学研究科地域連携センター
 神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター
 神戸大学都市安全研究センター

遠野ボランティアバスが走る 学生ボランティア支援室

学生ボランティア支援室では、東日本大震災発災直後からの「何かできないか」「現地で貢献できる活動はないか」との学生の声にこたえ、「遠野まごころネット」（岩手県遠野市）と連携し、学生のボランティア活動を支援するため、ボランティアバスを走らせています。

第1次は4月30日～5月6日。参加者は30人、そのうち学生は23人でした。3月末に、同室運営委員の村井雅清氏（「被災地NGO協働センター」）がアドバイスして、遠野市に「遠野まごころネット」が発足し、4月初めには宿泊施設も完成したことから、現地での活動が可能となったのです。続いて6月28日～7月5日、8月16日～23日にも、遠野を拠点に、陸前高田市、大槌町でボランティア活動がおこなわれました。

神大生の被災地ボランティアの特徴は、被災者の方々への「足湯」です。「足湯」とは、タライなどにお湯をはり、被災者の方に足をお湯につけてもらい、学生ボランティアが手をマッサージするものです。阪神・淡路大震災で、寒い避難所の中でホッとしてもらうため、始まったもので、その後、中越地震や佐用町水害などの被災地でもおこなわれています。中越・KOBE足湯隊の被災地での活動は、2009年度学生地域アクションプランに採択されました。「足湯」を通じて、被災された方と1対1で、心身ともに近いところで向き合おう。何気ない「つぶやき」を通して、その方の心情に寄り添っていこう。阪神・淡路大震災以来の経験も引き継いで、遠野へボランティアバスは走りました。なお、今年度は、後1～2回ボランティアバスを派遣する予定です。



市民向けの「まちづくり地域歴史遺産活用講座」をめざして

人文学研究科

人文学研究科では、今年1月に兵庫県教育委員会と交わした覚書に基づき、市民を対象とした「まちづくり地域歴史遺産活用講座」の試行プログラムを県民局単位で実施しています。

地域に残る歴史遺産を次代に引き継いでいくためには、市民自身が地域の歴史文化を支える担い手になることが必要です。人文学研究科では、地域の歴史の見方や資料の扱い方など、基礎的な知識や技術を学ぶ市民向け講座を開催し、市民の方々が、地域の歴史文化遺産の保存に関心を持ち、まちづくりに活かしていただこうとしています。そのため、試行プログラムを実施し、年齢性別を問わずさまざまな方々に講座を受けていただき、市民講座にふさわしいものを模索しています。

プログラムの中には、「災害から地域史料を守る」ワークショップも含まれています。実際に史料が水に濡れた時にどのようにすれば良いか、市民自身が家庭にある身近なもので、救急処置をとることができるよう講習もおこなわれています。

プログラムは、第1回目は昨年12月に姫路市香寺町、第2回は今年2月に朝来市生野町、第3回は4月に尼崎市、第4回は7月に三田市、9月には第5回目として神戸大学内で開かれる予定になっています。



【公開シンポジウム】

東日本大震災からの復興に向けて —神戸にできること—

阪神・淡路大震災の被災経験のある神戸大学は6月に、全学を挙げて「東日本大震災からの復興に向けた神戸大学からの提言（第一次）」をまとめ、五百旗頭真・東日本大震災復興構想会議議長に提出しました。8月3日（水）には、神戸国際会議場において、この提言を基に公開シンポジウム「東日本大震災からの復興に向けて—神戸にできること」を開催しました。

はじめに、福田秀樹・本学学長より本学の提言が報告されました。基調講演は、五百旗頭真・本学名誉教授から阪神・淡路大震災の復旧復興の経験を活かした東日本大震災復興構想会議での審議について、その後のパネルディスカッションでは、田中泰雄・神戸大学都市安全研究センター長のコーディネートにより、井上明久・東北大学総長から東北大学の被害状況と復旧復興ビジョン、室崎益輝・関西学院大学総合政策学部教授からは「自治組織、産業技術、科学技術」の3つ復興の必要性（および学生の被災地への派遣）について発言がありました。会場の参加者からも多くの質問が出され、阪神・淡路大震災を経験した被災地ならではの関心の高さがうかがわれました。



2011年度学内公募事業を採択

地域連携推進室では、学内の新しい地域連携の芽を育てるため、各部局等で計画されている事業の支援をおこなっています。また、学生による地域社会を活性化しようとするための活動を支援しています。今年度は、特に東日本大震災への支援活動を応援しています。

地域連携事業 採択事業（教職員対象）

| 部局名 | 申請事業名 |
|------------|----------------------------|
| 人間発達環境学研究所 | 南あわじ市における「国生みの里プロジェクト」への支援 |
| 医学研究所 | 兵庫県喘息死ゼロ作戦 |
| システム情報学研究所 | 神戸市と連携した神戸空港宇宙往還機導入計画 |

学生アクションプラン 採択事業（学生対象）

| 団体等名 | 申請活動名 |
|------------------|----------------------------|
| 神戸大学アメリカンフットボール部 | 発達障がい児の早期療育としてのフラグフットボール教室 |
| From KOBE | From KOBE |
| ユース六篠 | 自給自足への道～自分で作った米で被災地支援 |

* From KOBE は、「今、神戸にできること」をテーマに、震災を考える学生フォーラム。

活動報告（2011年4月～8月）

| | | |
|----|-----|---|
| 4月 | 04日 | 地域連携事業（教職員向）、学生アクションプラン（学生向）の公募開始（～28日） |
| | 19日 | 「青野原俘虜がみた世界」展第2回学内実行委員会 |
| | 28日 | 灘区長、新任挨拶に来訪、学長と懇談 |
| 5月 | 07日 | 神戸市企画調整部長（大学連携支援室長）来訪 |
| | 10日 | 神戸大学・灘区まちづくりチャレンジ助成事業企画審査会にオブザーバー参加 |
| | 19日 | 篠山市・神戸大学、大学協定締結記念シンポジウム実行委員会（神戸大学） |
| | 21日 | 『学生支援 GP 終了後を考える連続支援シンポジウム』第1回に参加 |
| | 31日 | 「青野原俘虜がみた世界」展第3回学内実行委員会 |
| 6月 | 02日 | 三木市、地域連携事業について相談のため来訪 |
| | 07日 | 加西市教育委員会と食資源教育研究センター訪問 |
| 7月 | 01日 | 地域連携推進室事務担当部署が連携推進課産学官連携グループに変更 |
| | 03日 | 篠山市、大学協定締結記念シンポジウム開催（篠山市丹南健康福祉センター） |
| | 29日 | 「青野原俘虜がみた世界」展第4回学内実行委員会 |
| | 31日 | 『学生支援 GP 終了後を考える連続支援シンポジウム』第2回 |
| 8月 | 03日 | 公開シンポジウム「東日本大震災からの復興に向けてー神戸にできること」 |
| | 08日 | 「青野原俘虜がみた世界」展、交響楽団有志への説明会 |
| | 12日 | 神戸市企画調整部訪問 |

【お知らせ】

・2011年3月末に、『平成22年度神戸大学地域連携活動報告書』を発行しました。報告書は神戸大学学術成果リポジトリ Kernel で公開しておりますので、ご覧下さい。なお、報告書は在庫があります。ご希望の方は下記までご連絡ください。

・7月1日より、地域連携推進室の事務業務の担当部署が、研究推進部連携推進課産学官連携グループに変更になりました。今後、地域連携に関するお問い合わせ等がございましたら、下記へご連絡ください。

記

研究推進部 連携推進課 産学官連携グループ 電話：078-803-5427 FAX：078-803-5389

MAIL：ksui-chiiki@office.kobe-u.ac.jp

編集後記

東日本大震災からまもなく半年をむかえます。岩手県内のすべての避難所が閉鎖され、一歩ずつ復興へとむかっています。神戸大学は、阪神・淡路大震災を経験した大学として、これからも被災地のみなさんに寄り添っていきたくと考えています。